

# 人と自然に大切なものは？

# 再処理工場を検証する

6月12日、「六ヶ所再処理工場に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」(以下、阻止ネット)が主催する3回目の院内集会在、参議院議員会館で開かれました。今集会是、読売新聞東京本社論説委員の井川陽次郎さんを招き、六ヶ所再処理工場推進の立場の話を聞いた上で、反対派としての論点を鮮明にすることを目的としました。



六ヶ所再処理工場に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク運動

総理大臣の問責決議などが上程された国会会期中にもかかわらず、川田龍平(無所属)議員をはじめ民主党からは、下田敦子・大島九州男・大原雅子・小宮山洋子各議員、社民党からは福島瑞穂議員、議員秘書12人、阻止ネットからの参加者を含め80人で会場はいっぱいとなりました。

### 六ヶ所再処理工場推進派というより必要派

井川さんからは、「再処理」は必要と思う」というテーマで話がありました。  
 ・エネルギーがないと困る、とくに電気エネルギーは必要不可欠。そのため原子力が必要だ  
 ・エネルギー資源の有効利用として、原子力発電所からの使用済み核燃料の再処理、高速増殖炉もんじゅの実用化は、他のエネルギー資源と比較してコストも安価、安定性もある  
 ・再処理工場で放出する放射能は、クリプトン85・炭素14・トリチウム。いずれも自然界に存在し、体内に取り込まれても新陳代謝な



講師の井川陽次郎さん



熱のこもった意見交換がされました

どで排出される。放出しても海洋や大気に拡散され心配はない  
 ・指摘されている活断層は、日本原燃の調査では見つけられていない。仮に直下で地震があっても耐震性が十分確保されている  
 ・現在、本格稼働のための最終の試験段階。高レベル放射性廃棄物処分のためのガラス固化に問題がある。それについては十分な結果が得られるようにするべき  
 ・どんなものにも完璧はない、できる限りの対策を立て、不測の事態にも対処できるゆとりもあり、再処理工場は安全といえる

### 再処理工場はなぜ六ヶ所村に？熱い意見交換

各議員(川田・下田・大島・福島)から次のような意見が出されました。  
 ・六ヶ所に再処理工場建設の話があつた当時、地元から「なぜ六ヶ所村なのか」「なぜ東京ではないのか」の質問が出された。その時の説明は、人口密度が希薄で、事故があつても小事に終わるといふもの。東京で

## 青森の空に響け！「止めよう再処理」



2008年6月7〜8日、青森市・青い海公園にて「止めよう再処理！全国集会」(止めよう再処理！全国実行委員主催)が開催されました。核燃料サイクル阻止1万人訴訟原告団・青森県反核実行委員会、核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会など取り組みに連帯する全国の団体が現地に一堂に会し、参加した約2000人(内グリーンコープ15人)が「再処理NO!」を高らかに宣言しました。



集会では、吉田共同体代表理事が「阻止ネット」を代表して「全国の消費者・母親たちは青森県のみならずおいしい農産物や海産物を放射能に汚染させるようなことはしたくないと思います。阻止ネットの『六ヶ所再処理工場の本格稼働に反対し、その中止を求める』署名活動に90万筆が集まりました。連帯して運動を広げていきましょう」と挨拶しました。  
 現在、六ヶ所再処理工場は、アクティブ試験の最終段階でのガラス固化の失敗から本格稼働が13回目の延期となっています。施設近くの活断層も心配されています。集会終了後、会場の参加者は青森市内をデモ行進し、六ヶ所再処理工場計画の撤廃を強く訴えました。

は被害が甚大になるといふことだった  
 ・浜岡原発も活断層の問題から、原発の新耐震指針に基づいて増設を行つた。六ヶ所再処理工場も新指針に基づいて検討が行われるまでは本格稼働はすべきではない  
 ・原発は放射能を外に漏らさない建物の構造になっているが、六ヶ所再処理工場では海洋や空气中に放出される構造になっていることが大きな問題  
 ・再処理工場は通常の原発の1年分の放射能を1日で放出すると言われている。環境や自然界に影響を与えないはずはない。次世代やその次の世代に、大きなリスクを負わせてしまう  
 ・放射能の人体や自然界への影響は未知の部分もある

る。しかも、チェルノブイリのような事故があれば、甚大な被害が人や環境に及ぶ、予防原則の上に立つて考えるべき  
 井川さんからの主な応答は、以下のとおりです。  
 ・再処理工場の立地として、自分や東京都知事は東京にあつてもいいと言つて  
 ・新耐震指針は細かい点の改定、旧耐震指針でも大きな問題については対応しており、安全性に問題はない  
 ・リスクはあるが、それを恐れて取り組みを中止すれば、産業界や国民生活へのマイナスは大きい

### 最も大切にされるべきは、安全性

最後に阻止ネットを代表し、原子力資料情報室の伴英幸さんが意見を述べました。  
 ・放出されている放射能(クリプトン85、炭素14、トリチウム)は、フランスやイギリスの再処理工場の付近でも、風の条件などで濃度が部分的に高いところが出てきている。自然界は考えているより複雑に動く  
 ・日本原燃は放出放射能の総量規制をしているだけ。原発と同条件で濃度規制をするなら、放射能の濃度を希釈するためには、甲子園球場の何十倍の水が必要だ。また、放出している放射能は自然界に存在する量より高くないという指摘だが、実際に増えているのが分かっている。クリプトンは高い濃度が検出されているところもある

### 大切なのは生活者の視点

「子どもたちの未来に禍根を残さないために、六ヶ所再処理工場の問題を真剣に考える。経済効率よりくらしの安全を最優先する」が阻止ネットの基本的な考え方です。  
 今回の院内集会是、推進する立場からの話を聞き、反対する立場としての論点を鮮明にすることができたと言えます。  
 ※旧耐震指針(1981年策定)では、直下型でマグニチュード6.5を想定していた。しかし、それを越える地震があつたことから、活断層の調査基準の拡大や施設の内容に応じて耐震強度のレベルが修正された。耐震性は新潟県中越沖地震後に見直された